



八丈島のムロアジ、クサヤモロ

【クサヤモロ棒受網漁】

クサヤモロは南日本一帯と世界の暖海域に広く分布するアジの仲間で、最大で 50 cm を超えます。伊豆諸島から小笠原諸島では普通に見られる魚です。

クサヤモロは八丈島ではキンメダイ、トビウオ、カツオ等と並び重要な魚種で、今年も 8 月 1 日から棒受網漁が始まりました。しかし、近年はくさやの需要低迷もあって漁獲量は 200 t 未満です (図 1)。

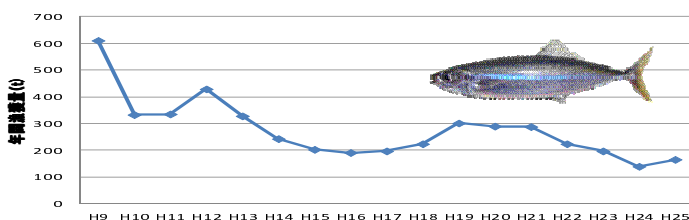


図 1. クサヤモロ漁獲量推移

【大ムロと小ムロ】

島しょ農林水産総合センターでは、クサヤモロの資源動向を把握するため、毎年 7~12 月に月に 1 回程度、クサヤモロの漁獲調査を行っています。今年も 7 月下旬に漁期前調査を行いました。その時の尾叉長組成が図 2 です。

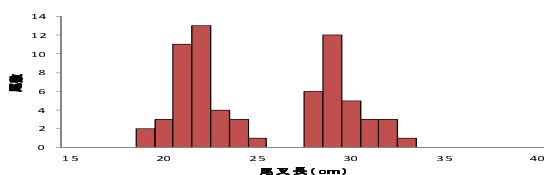


図 2. 2014 年 7 月の尾叉長組成

サイズの異なる 2 つのグループがあるのがわかります。22cm にピークを持つグループ (平均 21.5cm) が小ムロ、29cm にピークを持つグループ (平均 28.9cm) が大ムロです。昨年の 7 月 (図 3) は 23cm と 30cm にピークがみられており、今年よりサイズが小さいことがわかります。

【大ムロはどこへ?】

これまでの調査結果から、毎年 7~8 月に小ムロが来遊し、翌年まで八丈島周辺に留まって成長し、大ムロになると推測されています。昨年の調査では 7 月よりも 8 月に小さいサイズの小ムロが加入しているのがわかります (図 3)。また 7 月と 8 月はともに小ムロと大ムロが見られますが、11 月には小ムロしか見られません。11 月のグループは 7 月に 23cm にピークを持った小ムロが 28cm に成長したものです。過去に冬季に行った調査でも大ムロは見られませんでした。大ムロがどこにいったのか今のところ、わかりません。また小ムロがどこから来るのかもわかりません。今後はこれらの解明に向けて標識放流などに取り組んでいく予定です。

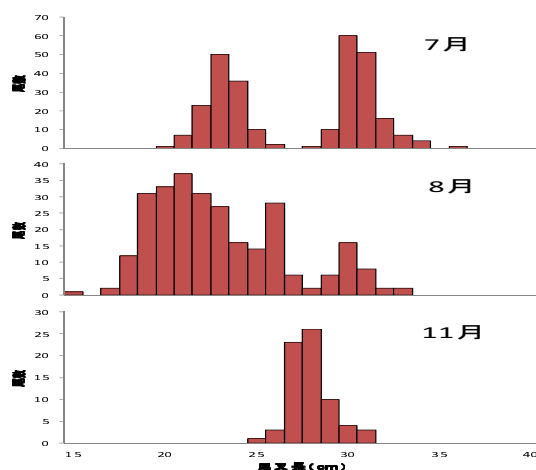


図 3. 2013 年の月別尾叉長組成

※尾叉長：頭^びの吻端^さ~尾^ちびれの付け根^{よう}までの長さ